

山川中学校
「学力向上実行プラン」

- ①自分の考えをまとめ、文章で表現できる生徒の育成。
②基礎・基本の学習が定着し、主体的に学習に取り組んでいける生徒の育成。

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 目標を継続し実践することによって、学年があがることに真剣に授業に取り組んでいる。	①宿題やあゆみを欠かさず提出し、書く技能を身につける。 ②セミナーテストで基礎学力の定着を図る。 ③授業に真剣に取り組むことができる。 ④家庭学習が1時間以上できる。	①コラム視写提出率 100% 自主勉強ノートやあゆみの提出率 95%以上 工夫が見られる自主勉強ノートや、あゆみの内容が豊かになるように努める。 ②セミナーテストの平均点 80点以上 ③授業集中 90%以上 ④1時間以上の家庭学習 90%以上			
課題 書くことに苦手意識を持っている生徒が多く、語彙が少ない。学習習慣が確立していないため、基礎的・基本的な知識・技能の習得が難しい生徒がいる。	具体的方策(教員の取組) ①朝の学習の時間にコラムの視写をする。 ②内容が充実した自主勉強ノートやあゆみを紹介する。 ③授業の目標と流れを的確に提示する。 ④板書の工夫や視覚支援なども含め教員は教材研究を行い、よりよい授業作りに努める。	取組指標 ①月1回コラムを視写する。 ②課題提出率を80%以上にする。 ③目標と授業のふりかえりの提示を教員全員ができている。 ④授業導入の習慣化の徹底が全教科で共通理解できている。		評価 ・セミナーテストの平均点が80%に達していないので、復習の機会や自主勉強の課題を工夫する。 ・家庭学習時間の調査をする。	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 調べ学習で、決められたテーマに沿って調べたことを自分でまとめることができる。	アクティブ・ラーニングで主体的・協働的に学ぶことができる。目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを進んで話したり書いたりできる。	「自分の意見や考えをまとめて文章で書いたり、言語で表現したりする力が向上したと思う。」(自己評価)の肯定的割合を、70%以上にする。			
課題 まとめた文章を書いたり、自分の意見をまとめて発表したりするのは苦手である。	具体的方策(教員の取組) ①オープンクラスで、お互いの授業を見合って、効果的な授業方法を学ぶ。 ②調べ学習にICTを利用する。 ③ホワイトボードミーティングを活用した授業を取り入れる。 ④積極的に自分の考えや意見を発表できる。	取組指標 ①年2回以上、互いの授業から学ぶ研修の機会を持つ。 ②授業でICTを活用する。30%以上 ③各教科でホワイトボードを学期に1回以上活用する。 ④発表の仕方のモデルを提示する。		評価 ・声の大きさのヒストグラムや発表の時の態度について、各教室、廊下に提示し、発表の仕方を工夫する。	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた課題については真面目に取り組み、仕上げる事ができる。	①学ぼうとする意欲・意識を明確にし、家庭学習や苦手な課題にも自分から取り組むことができる。 ②読書をする習慣をつける。 ③自己受容感、貢献感、責任感をもつことができる。	①家庭との連携を図り、家庭学習の充実を図る。 ②読書が好きである 70%以上 ③「自分の良さに気づいている」の割合を70%以上			
課題 自分から課題を見つけて取り組むことは苦手である。家庭での読書の習慣が身につけていない。	具体的方策(教員の取組) ①授業の開始と終了に元気なあいさつができるよう指導する。 ②学習規律の明確化と徹底を図る。	取組指標 ①「あいさつがよくできた」(自己評価)の肯定的割合を95%にする。 ②学習規律について、共通理解して、各授業で指導する。		評価 ・生活アンケートにおいて、自分の成長につながったことを振り返らせ、自分の良さに気づかせ	次年度における改善事項

平成31年度 学力向上ロードマップ

